

平成28年11月9日
総務部庶務課

日米の恒久平和の願いと両国の絆の象徴として ミズーリから寄贈された零戦の破片を展示します

ハワイ・真珠湾にある戦艦ミズーリ記念館から長岡市に、零式艦上戦闘機（零戦）右翼の破片が寄贈されました。

戦艦ミズーリ記念館は、これまで長岡市とホノルル市が未来志向で取り組んだ青少年の平和交流や太平洋戦争関連施設3館（戦艦ミズーリ記念館・アリゾナ記念館・太平洋航空博物館）と長岡戦災資料館、山本五十六記念館の5館による平和への取り組みに深い理解を示していたことから、今回の寄贈が実現しました。

今後は、零戦の破片を長岡戦災資料館で展示し、日米の恒久平和の願いと両国の絆の象徴として、青少年の平和学習などに活用します。

1 零戦の破片の公開

長岡戦災資料館での展示にあたり、学生平和交流プログラム in Honolulu で12月にホノルルを訪問する学生向けの研修会で、お披露目します。

(1) 学生向け研修会

- ・日 時 11月13日（日）午後4時30分から
- ・場 所 長岡戦災資料館 1階展示室（城内町2-6-17）
- ・内 容 零戦の破片を見学し、真珠湾にある太平洋戦争関連施設について学習
- ・出席者 ホノルルを訪問する学生12人（大学生8人、高校生4人）
ハワイ日米協会理事 浅沼正和氏
長岡戦災資料館アドバイザー 星貴氏

(2) 一般公開

- ・期 日 11月15日（火）から ※14日（月）が休館日のため
- ・場 所 長岡戦災資料館 1階展示室

2 零戦の破片

- ・昭和20年4月の沖縄戦で戦艦ミズーリに特攻をした零戦の右翼の破片で、アルミニウム合金製、長さ約8センチメートル。
- ・戦艦ミズーリの右舷後部には、零戦の特攻を受けた痕跡が今も残っています。
- ・その特攻隊員は亡くなりましたが、当時のキャラハン艦長は「敵兵でも死んだら敵ではない。国のために命を捧げた勇士である。」として、丁寧に水葬したといます。



Photo © NH 62696 Kamikaze about to hit USS Missouri, 11 April 1945
戦艦ミズーリに激突する直前の零戦



水葬される特攻隊員の亡骸

3 寄贈の経緯

長岡市とホノルル市は、これまで姉妹都市交流を積み重ねており、特に青少年の平和交流に力を入れています。ハワイ日米協会名誉会長のエドウィン・ホーキンス氏（写真左）は、これを高く評価し、寄贈について戦艦ミズーリ記念館に打診。同館は、昨年8月の平和・未来シンポジウムへの参加など、戦後70年の長岡ホノルル平和交流記念事業として行った、太平洋戦争関連施設3館と長岡戦災資料館、山本五十六記念館の5館による平和への取り組みに深い理解を示されました。

5館による平和交流の一環として、10月8日に戦艦ミズーリ記念館・学芸員のマイケル・ワイデンバック氏（右から2人目）と長谷部正寿氏（右）が来岡した際、長岡戦災資料館、山本五十六記念館、如是蔵博物館等の視察や意見交換を行い、持参した零戦の破片を市長職務代理者（当時）の高見副市長に手渡しました。



高見副市長へ寄贈

<戦艦ミズーリ記念館：マイケル・ワイデンバック学芸員のコメント>

「長岡戦災資料館に行き、空襲で亡くなった方々の遺影を拝見した。私たちは平和と希望のために戦艦ミズーリ記念館で働いている。キャラハン艦長は戦艦ミズーリに激突して亡くなった特攻隊員に、同じ人間であるとして敬意を表した。その特攻隊員は長岡出身ではないが、国を守るために亡くなった日本人である。零戦の破片は、日米両国の平和と絆の象徴として、長岡市で、しっかり活用してほしい。」

※別添資料参照

【戦艦ミズーリ記念館と寄贈された零戦の破片】



戦艦ミズーリ



寄贈された零戦の破片（右翼）

※ 戦艦ミズーリは、第二次世界大戦、朝鮮戦争、湾岸戦争などで活躍した戦艦で、昭和20年9月2日に東京湾に停泊中の同艦上で日本の降伏文書調印式が行われたことでも知られています。平成11年から真珠湾で記念館として公開されています。

※ 零戦の破片は、長岡市に続いて、10月11日には、戦艦ミズーリ記念館から海上自衛隊の鹿屋航空基地史料館（鹿児島県鹿屋市）にも寄贈されています。山本五十六らが真珠湾攻撃の作戦を検討した「鹿屋会談」が行われたのが、鹿屋航空基地です。